

アジア・ゲートウェイ構想の実現に向けた 航空分野の取組み

- ・戦略的かつオープンな国際航空ネットワークの構築
- ・大都市圏国際空港の24時間化

平成19年4月25日
国土交通省 航空局

戦略的かつオープンな国際航空ネットワークの構築について

我が国の空港全体を十分活用しながら、以下の方針で航空交渉を加速し、相手国と互いに納得する形で、**戦略的かつオープンな国際航空ネットワークの構築**を図る。

(1) 首都圏(成田・羽田) < 2010年以降 >

成田の国際線は現在週1,566便、うちアジア路線週880便(都市数35)
 成田の北伸(20万回から22万回へ**年2万回増加**)と羽田の再拡張(**年3万回**)により増加する**貴重な発着枠(年5万回)**を**戦略的に活用**。ただし早々に満杯。
 羽田については、国内線の発着枠を十分に確保することが必要であることから、国際線に回せる回数は、供用開始時に3万回であり、近距離国際路線を就航。
 羽田からの**国内線の最長距離を一つの目安**として、**羽田にふさわしい路線**を今後の航空交渉によって確定。

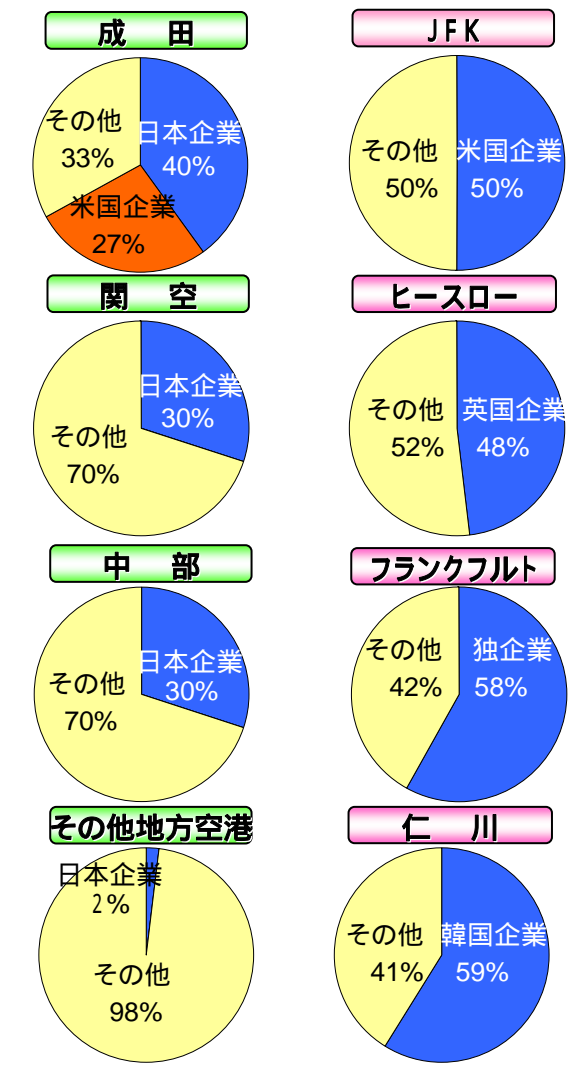
(2) 関空・中部

関空の国際線は現在週652便、うちアジア路線週496便(都市数32)
 中部の国際線は現在週383便、うちアジア路線週282便(都市数22)
 24時間利用可能な**国際拠点空港**として、我が国の国際航空ネットワークの拡充に資するよう、深夜も含め**オープンな形で戦略的にフル活用**。

(3) 地方空港 (観光振興のためにも国際線を積極的に誘致)

23空港において現在、週369便のアジア便が就航(就航都市数22)
 便数・乗り入れ地点を**更にオープンにするためのアジア主要国等との航空交渉を加速**
 定期便の前段階となる**国際旅客チャーター便の積極的促進**(VJCとの連携等)

各空港の国際線発着枠のシェア



大都市圏国際空港の24時間化について

我が国の国際競争力強化を図るため、大都市圏拠点空港の24時間化を積極的に推進

(1) 関空・中部

- ・関空(本年8月2日の2本目滑走路供用開始により、深夜のメンテナンスを交互に実施することで、**完全24時間化**)及び中部(1本の滑走路で24時間運用中だが、今夏ダイヤ(3月25日)より、**週3日の深夜メンテナンス**)の利用を積極的促進

(2) 首都圏

再拡張前の羽田の最大限活用 < 羽田の国際旅客チャーター便 >

再拡張前でも最大限の努力

	6時～23時(昼間時間帯)	23時～6時(深夜早朝時間帯)
成田空港 (国際線の基幹空港)	・グローバルな国際航空ネットワークを有しており、現在95都市、245便/日に就航	(騒音問題によりクローズ)
羽田空港 (国内線の基幹空港)	・羽田 - 金浦チャーター便(8便/日) ・羽田 - 虹橋チャーター便の早期実現 ・暫定国際ターミナルの拡張 ・羽田 関空 海外の乗継ぎ便の促進	・国際旅客チャーター便(欧米便も可能)の積極的促進 ・再拡張工事により滑走路3時間全面閉鎖 (0時40分～3時40分)

2010年以降の成田と羽田の一体的な運用 < 羽田に国際定期便 >

首都圏における24時間化

	6時～23時(昼間時間帯)	23時～6時(深夜早朝時間帯)
成田空港 (国際線の基幹空港)	・北伸による平行滑走路2,500m化により、発着容量が20万回から22万回に 2万回増加	(騒音問題によりクローズ)
羽田空港 (国内線の基幹空港)	・成田を補完する役割を担うため、 近距離の国際旅客定期便3万回(40便/日)を就航	・騒音問題等に配慮しつつ、貨物便も含めた国際定期便を就航(欧米便も可能)